

2020

英國 CMI 認定サステナビリティ（CSR）

プラクティショナー資格講習（詳細説明）



目次

はじめに	2
タイトル	2
定員	3
主催	3
講習について	3
講習の構成	4
対象者	4
受講のメリット	5
日本における本資格講習参加者の声	6
CSR プラクティショナー資格講習受講企業・団体一覧	10
英国 CMI 認定 サステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者	12
講師 下田屋毅	13
ゲストスピーカー ニコス・アヴロナス氏	16
英国 CMI とは	17
CSE とは	17
お申込み・お問い合わせ	17
よくあるご質問（FAQ）	18

はじめに

世界は、気候変動、人口爆発、資源不足、水不足、エネルギー・燃料問題、貧富の格差拡大、食料問題など様々な課題を抱えており、その中の企業の取り組みの重要性が増加している状況があります。それらを踏まえて、サステナビリティの分野でもグローバルな大きな流れが起きています。

国際規格 ISO26000、統合報告フレームワーク、ビジネスと人権に関する指導原則、GRI スタンダードなど原則や基準の発行、紛争鉱物、パーム油、綿花に関わる調達やそれらの労働環境、人権課題を含むサプライチェーンの問題、持続可能な開発目標（SDGs）や 2030 アジェンダ、サーキュラーエコノミー、パリ協定など海外では企業を取り巻く状況が変化し、企業はその対応に迫られています。でも何故企業はこれらに対応しなければならないのでしょうか？

今回ご紹介いたします本資格講習は、英國在住サステナビリティ・コンサルタントが講師として、グローバルなサステナビリティの流れを踏まえ、サステナビリティのトレンドや戦略的に実施する方法などを体系的に学べるようお手伝いいたします。

また、本資格講習は、英國の主要団体である CMI の公認資格で、世界で通用する CSR 資格です。2008 年より、世界の主要都市（シカゴ、ワシントン DC、ニューヨーク、サンフランシスコ、アトランタ、トルント、ブリュッセル、ロンドン、アムステルダム、ドバイ、アブダビ、アテネ、クアラルンプール、東京、大阪）で開催され、現在、5 大陸 28 か国約 1000 人が資格保持者となっています。世界のサステナビリティのトレンドを踏まえ、サステナビリティの戦略的な実施を考えている企業の環境/CSR 担当者、サステナビリティの包括的な知識の必要性を感じている方など、是非この資格講習を御検討ください。

タイトル

- 英国 CMI 認定 サステナビリティ（CSR）プラクティショナー資格講習

開催日時

2020 年 3 月 5 日（木）・6 日（金）両日とも 9:00～17:00

（その次の開催は、2020 年 7 月、10 月となります。）

開催場所

- 東京都港区（詳細は別途講習参加者に連絡いたします）

定 員

- 16名

主 催

- サステイナビジョン社 (Sustainavision Ltd : <http://www.sustainavisionltd.com/>)

英国カンパニーズハウス、イングランド&ウェールズ登録 [Company No. 7477687](#)
[在英日本商工会議所](#)会員企業

講習について

- 期間： 2 日間
- 講習前と講習後に課題があります。
- 講習後の課題の合格をもって、英国 CMI 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー資格が付与されます。
- 講義はすべて日本語で実施されます。講師やゲストスピーカーが英語で講義をする場合には、通訳が付きます。

講習料

カテゴリー	(表示額 1 人当たり)
通常料金 (個人)	175,500 円
個人：第 21 回アーリーバード割引 (早割) (3 月開催：2020 年 1 月 31 日迄) 10%	157,950 円
個人：第 22 回スーパー・アーリーバード割引 (早割) (7 月開催：2020 年 3 月 6 日迄) 15%	149,175 円
会社割引 (1 社 3 人以上：15%)	149,175 円
NGO/NPO,大学関係者、中小企業割引：20%	140,400 円

講習の構成

- 内容は、レクチャーとグループワークがバランスよく織り交ぜられた集中プログラムです。
- 講師と受講者の双方向でのやり取りで進められ、より効果的に学習することができます。

<トピック>

- ① サステナビリティ（CSR）とビジネス事例
- ② サステナビリティに関する現在の世界・地域の法律
- ③ サステナビリティ（CSR）戦略（事業に統合する方法）
関連する基準とガイドライン（国連グローバル・コンパクト、GRI スタンダード、CDP、SROI）
- ④ 責任あるマーケティングどのようにグリーン/ブルー/SDG・ウォッシングを回避するか
- ⑤ サプライチェーン・マネジメントとカーボン・マネジメントにおけるサステナビリティの重要性
- ⑥ GRI と IIRC をベースにしたサステナビリティ（CSR）報告と統合報告
- ⑦ 外部保証、報告におけるコミュニケーションの方法と信頼性の獲得
- ⑧ サステナビリティ（CSR）プラクティショナーの役割と今後の動向

対象者

- 企業代表者、CSR/サステナビリティ・環境担当部門長
- CSR/サステナビリティ・環境マネジメント担当部門
- 人材開発担当部門
- マーケティング担当部門
- PR・広報宣伝・IR 担当部門
- コミュニケーション担当部門
- 海外事務所・工場・支店において CSR/サステナビリティを今後活発に展開することを計画している CSR/サステナビリティ担当部門・担当者
- CSR/サステナビリティを本格的に導入しようとしている企業の CSR/サステナビリティ担当者
- CSR/サステナビリティの包括的な知識の必要性を感じている方

受講のメリット

- ✓ グローバルリーダーにおける CSR/サステナビリティの資格講習です。
- ✓ 英国的主要団体 Chartered Management Institute (CMI) から資格が付与されます。この資格は世界で認識される資格です。<http://www.managers.org.uk/>
- ✓ CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)/サステナビリティの幅広い内容が網羅されており、世界を見据えて CSR/サステナビリティの観点から何が企業にとって重要かを学ぶことができます。
- ✓ 内容は、レクチャーとグループワークがバランスよく織り交ぜられた集中プログラムです。講師と受講者の双方向でのやり取りで進められ、より効果的に学習することができます。
- ✓ 講習では、グローバルなケーススタディを活用し、グループワークを通じて実際に国内外で CSR/サステナビリティの実践が問われる場面をディスカッションします。
- ✓ 主任講師は、欧州・ロンドンに拠点を置き、最新の CSR/サステナビリティ情報を入手していますので、本講習を通じて、世界の先進的な知識を得ることができます。
- ✓ ゲストスピーカーは、シカゴ、ブリュッセル、アテネに拠点を持つ CSR コンサルティング会社 Centre for Sustainability and Excellence (CSE)社の代表取締役であるニコス・アヴロナス氏が務め、海外 CSR の状況についてのプレゼンテーション、Q&A セッションを受講できます。
- ✓ 包括的なスキルを得ることができます。
- ✓ ステークホルダーへのアプローチを学ぶことによって、ステークホルダーからのレベルの高い信頼性を得ることができます。また、ビジネスの透明性の理解・実践することによって、トリプルボトムラインをベースとした企業責任を効果的に推進していくことができます。
- ✓ サステナビリティ(CSR)プラクティショナー資格を取得することにより、組織内外での CSR 計画・戦略・プログラムをより効果的に実施することができるようになります。
- ✓ 2 日間の講習を通じて様々な業界の CSR 関係者とのネットワーク構築をすることが出来ます。
- ✓ 資格取得後は、世界と日本それぞれのサステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者限定の情報交換サイトへの登録ができます。
- ✓ 日本のサステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者限定の情報交換用メーリングリストに登録できます。

日本における資格講習参加者の声

(順不同、敬称略)

- ステークホルダーの特定やマテリアリティの洗い出しなど、サステナビリティを経営に統合する上で必要なさまざまな手法を経験できたこと、新たな情報をキャッチアップしたこと、異業種のものの見方を知ることができたこと。この 3 点が、今回の研修で得た大きな成果です。その後の課題も含め、サステナビリティについて考え続ける濃厚な時間を過ごしました。（前田建設工業株式会社 CSR・環境部 渡辺 千尋）
- サステナビリティを取り巻く潮流やその背景、意義について理解出来、またマテリアリティ選定、ステークホルダーマップなど企業や組織が活動を進める上で参考にすべき具体的な方法を確認することができました。また、講習では他社、他業界の方と意見交換や情報共有をすることが出来、とても有意義でした。（三菱重工業株式会社 バリューチーン本部バリューチーン革新部環境企画グループ 関 里美）
- サステナビリティに関するキーワードを内容まで含めてご説明いただき、理解が深まったこと。深めるための考え方（ex. ステークホルダーの評価や、CSR 統合のステップなど）を学べたこと。また人脈が作れたことが良かったと思います。（株式会社ベネッセホールディングス ブランド・CSR 部 CSR 課 大石英司）
- 興味あるものの全くの素人の当人にとって、Logical かつ Practical、そして具体的な事例を用いて、Program 設定の基本的な組み立て方、考え方、そして用語の意味を教わることができました。また 18 人という適度な人数も会話が良く聞こえて良かったと思います。（Dole Asia Holdings PTE. LTD, Dole Packaged Foods Asia, Vice President & Chief Strategy Officer, 大場 恵介）
- 今回の講習を受講して、CSR に関する新たな概念を学ぶことができたこともさることながら、今まで個人的に勉強してきた知識を体系化できたことが有意義でした。今後の業務に大いに参考になるとと思います。有難うございました。（株式会社日清製粉グループ本社 CR 室室長 南澤 陽一）
- 企業内でサラリーマンをしながら、志を持って行動されている参加メンバーの方々との出会い自体と、グループディスカッションも重視した構成で、各メンバーのバックグラウンドの違いを認識し、活かすことができる点。また全体像を包括的に学ぶ中で、自分の知識興味の偏りを認知し、今後調べるきっかけを得た事。（スリーエム ジャパン株式会社コンシューマー製品マーケティング部 石橋 愛子）
- 無知であった事項については新しい知識として、理解しているつもりであった事項についてはその位置づけと他の事項との関連性についてインプットすることができ、それらの体系的な理解が得られた。ま

た、書物等のみからではわからない重要ポイントを講師から教えていただくとともに、他の実務担当者からの視点や経験を耳にすることことができた点が良かった。（スクワイヤ外国法共同事業法律事務所 エアクラフトファイナンス/コーポレートロー パラリーガル 黒川 奈々）

- 体系的に学べたことはもちろん、人権などの分野に関わることかという面もカバーして頂き、曖昧でわかりづらいと思っていた CSR の定義が明確になりました。また社内での巻き込み方、推進するにあたっての現状と課題も挙げていただき参考になりました。（Kokuyo International Malaysia Sdn. Bhd. Marketing Manager 飯島 光代）
- 体系的な理解ができ、自分の知識が足りない分野が明確に。他の参加者の視点や、業界による違いが明確になった。時代の中の今の状況や、世界の中の日本など、立体的に感じることができた。（株式会社ベネッセホールディングス ブランド・CSR 部 課長 泉 ひろ恵）
- 講師がとても人格的に優れており説明を受け入れやすかったです。またハードルなく議論に皆が参加しており、双方向でコミュニケーションを多くとれることが非常に有益でした。事例や外部ゲスト講師の話も非常に興味深かったです。（株式会社リンクコーポレイトコミュニケーションズ 代表取締役社長 白藤 大仁）
- CSR とサステナビリティの深い意味まで目から鱗のわかりやすさだった。専門外であるビジネスの専門用語も、わかりやすく解説していただき助かった。一流企業の第一線を行く方々と考えやアイデアのシェアができるとても参考になった。（青森明の星短期大学 経理研究所所長 入試広報センター長 教授 山口 章）
- ビジネスにおいてサステナブルを切り口とした取り組みを行うにあたり、るべき方向性や、やらなければならない事を体系的に学ぶことが出来た。（YKK 株式会社 商品戦略室 室長 大喜多 一範）
- 単なる知識だけでなく、推進者としてどう動いていくべきか実用的な話も多く参考になりました。 Group Work や他の人の意見交換の場が多くあったのも良かったです。（株式会社リクルート サステナビリティ推進室 サステナビリティ G 斎藤 あや）
- 通常のセミナーでは得られない、サステナビリティ（CSR）全般に関しての実践的な課題解決方法や最新動向を体系立てて学ぶことが出来、非常に良い機会でした。会社のサステナビリティ部門が持つ専門知識の「ベンチマーク」としても活用できると実感しました。（協和発酵キリン株式会社 CSR 推進部 企画推進グループ木村 聰）

- 業務の中で断片的に身に着けた知識を CSR のトレンドの発信源である欧州の考え方にもふれながら体系的に整理できた。同じ悩みを持つ他社の方と思いを共有したり、知恵を出しあえた。（ハウス食品グループ本社株式会社 CSR 部 環境活動推進課 芝原 佳希）
- 世界的なトレンドを判ることが出来ました。また、受講に当たってはサステナビリティ（CSR）の体系を学ぼうと思っていましたが、更に上位の経営戦略との繋がりもクリアになりました。当社が実施していくべきこと、進むべき、着手すべき事、デザインを描いていくことが出来そうです。また、それらへのアプローチのヒントを沢山得ることが出来ました。考えをまとめるにとても役立ちました。（日総工産株式会社事業本部 営業部 営業企画課 水谷 洋司）
- 体系的に CSR について学べたことで、頭の中が整理されたと思います。普段なかなか時間を取って学べていないことも、質問をさせて頂きながら理解を深められたと思います。視覚的に事例を確認できたことも、大切だたと考えます（GW や video）（武田薬品工業株式会社 市川はるひ）
- 最新のサステナビリティ関連情報やグローバル動向をまとめて提供していただき、自分の知識や捉え方のアップデートと整理をすることが出来ました。また自社以外からご参加の様々な方々との情報共有や意見交換を通じて新たな刺激を受け、サステナビリティ推進に対する自分のアプローチを見直したり、考えをまとめるにとても役立ちました。（株式会社 JVC ケンウッド 執行役員 飯塚 和彦）
- CSR の仕事をして 4 年になります。自分の知識を整理し、最新の先進事例や動向を知る事ができました。本やテキストで学んだ事を、講師の豊富な知識に裏付けられた内容と共にレクチャーで学ぶことは大きいです。また、過去の有名な事件を映像で振り返る事ができた事で、更に理解が深まつたと思います。CSR・サステナビリティへ取り組んだキャリアを問わず、関わる全ての方に受講して欲しい内容です。（リコージャパン株式会社 経営企画事業本部コーポレートセンターコーポレートコミュニケーション部社会貢献推進グループ兼広報グループ 太田 康子）
- CSR、SDGs を体系的に理解し、個別のテーマは別として、その目的とビジネスへの応用の方向性が確認できた。（井関産業株式会社 代表取締役 安並 潤）
- CSR の最新動向をグローバル規模で体系立てて学べる機会が初めてでしたので、断片的だった知識がつながったことと、何となく思い込んでいたことが誤解だったり過去の内容だったとクリアになりアップデートされました。（フィリップスエレクトロニクスジャパン 徳永恵美子）
- 体系的に CSR を学べたことで新しい気づきがありました。CSR 支援会社として企業や団体の皆様との協働や新たな取組みを進めていく上で、ブレイクスルー・ポイントとなる要素を数多く発見できまし

た。とても濃密で楽しい2日間の研修でした。（株式会社 a2media IR コミュニケーション事業部 ディレクター 砂川祐恵）

- 最新の CSR に関するテーマの背景にあるメガトレンドを理解できましたこと。欧米の先進企業の具体的な業務への反映方法を下田屋さんのお話しや映像、資料などから知ることができましたこと。色々と真似をして実践してみたいと思いました。（東京ガス株式会社広報部 CSR 室主任 鉢村 彩）
- CSR の専門家の方々やこれを目指している方々と2日間一緒に過ごすことができ非常に刺激になりました（エルケム・ジャパン株式会社 前代表取締役社長 伊達 裕幸）
- 非常にあいまいにとらえていた CSR ということばについて世界的な動向、基準も含め具体的に示していただきしたこと。企業で実際に CSR に携わっておられる他の受講生の視点や考え方と直接触れられたこと。ステークホルダーの分析の演習では、企業の立場での思考のシミュレーションが少しはできたように思う。など非常に得るもの很多かったです。（公益社団法人京都モデルフォレスト協会事務局参事 田中寛子）わかりにくかった CSR についてかなりクリアになりました。国によっての違い、国際的な事例を Discussion を交えながら進めることができたので、自分の中での理解度は深まったこと実感しました。また参加のメンバーから得たものも大きかったです。（株式会社白寿生科学研究所 営業本部付文化担当広報ディレクター内倉眞紀子）
- CSR・Sustainability に関する包括的な知識・トレンドを効率的に学ぶことができた。実際に企業の CSR 部門で実務に取り組む方々の意見やお話を伺うことができた。自分として自社としてどう CSR・サステナビリティに関わっていけば良いか、具体的なイメージが持てた。下田屋さんの時間配分のメリハリとポイントを絞った説明の分かりやすさで、終日あきることなく受講できた。質問の時間を積極的に割いていただけたので、理解が深まった。（ハーチ株式会社代表取締役 加藤 佑）
- 欧州、米国の CSR に直接触れ、広い視野で CSR を捉えることができた。自社の課題を整理・把握することができた。売上・利益では表せない見えない価値を高めていくことの重要性・必要性を改めて感じた。（シチズンホールディングス株式会社 監査・CSR 室前 CSR 推進グループリーダー山田富士子）

その他の受講者の声は[こちら](#)

CSR プラクティショナー資格講習受講企業・団体一覧

(順不同、敬称略)

- 株式会社日立製作所
- インフィニート・ラボ
- 住友商事株式会社
- キリンビール株式会社
- 株式会社 Green prop 福岡支店
- TCO2 株式会社
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 公益財団法人 日本財団
- 株式会社 富士通鹿児島インフォネット
- 株式会社シータス＆ゼネラルプレス
- 法政大学
- コニカミノルタホールディングス株式会社
- 株式会社日本製紙グループ本社
- カシオ計算機株式会社
- NPO 法人 ECO 体験工房
- 特定非営利活動法人 C A N P A N センター
- ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社
- オシア株式会社
- パナソニック株式会社
- ベスター建物管理株式会社
- 生物多様性＆ビジネスコーディネーション協会
- 株式会社 日立システムズ
- アックスデザイン株式会社
- カルビー株式会社
- 有限責任監査法人トーマツ
- サントリーホールディングス株式会社
- 武田薬品工業株式会社
- NPO 法人発達障害児支援 LOF 教育センター
- 株式会社サステナビリティ・コミュニケーション・ハブ
- ソニー株式会社
- 株式会社ニューラル
- 千住金属工業株式会社
- シチズンホールディングス株式会社
- トップエンディトリアルコミュニケーションズ株式会社
- 東京大学環境安全本部
- アオイネオン株式会社
- 株式会社資生堂
- マツダ株式会社
- 有限会社アイルジャパン
- ダウ・ケミカル日本株式会社
- 東京エレクトロン株式会社
- グラクソ・スミスクライン株式会社
- リンテック株式会社
- ヤフー株式会社
- ローム株式会社
- 公益社団法人京都モデルフォレスト協会
- 株式会社白寿生科学研究所
- アライド・ブレインズ株式会社
- 関西ビジネスインフォメーション株式会社
- ギブン・イメージング株式会社
- 静岡ガス株式会社
- 前原環境技術士事務所
- 三菱レイヨン株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- エルケム・ジャパン株式会社
- 総合警備保障株式会社

- 一般社団法人 相続安心支援センター
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 楽学夢現合同会社
- 株式会社エアロアクア
- Kroll Inc.
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
- 株式会社サステナビリティ会計事務所
- 日本電信電話株式会社ネットワーク基盤技術研究所
- 株式会社エコロジーパス
- 東京ガス株式会社
- 国際航業株式会社
- 税理士法人 内山会計
- キャスレーコンサルティング株式会社
- 古河電気工業株式会社
- 株式会社エナジエティックグリーン
- 一般社団法人 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン
- 株式会社 a2media
- オリンパス株式会社
- 新電元工業株式会社
- 東レ株式会社
- 株式会社セブン＆アイ・ホールディングス
- 富士ゼロックス株式会社
- フィリップスエレクトロニクスジャパン
- ルーティヴ株式会社
- SCSK 株式会社
- 株式会社早稲田大学アカデミックソリューション
- リコージャパン株式会社
- 株式会社 Learning City
- 株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング
- 株式会社サエラ
- 公益財団法人自動車リサイクル促進センター（JARC）
- 株式会社日清製粉グループ本社
- 井関産業株式会社
- 株式会社 JVCケンウッド
- 株式会社 office 3.11
- 株式会社 GSユアサ
- 日本工営株式会社
- 株式会社 杉山・栗原環境事務所
- 株式会社リクルートホールディングス
- 株式会社 電通
- 特定非営利法人アースデイ・エブリディ
- 日総工産株式会社
- サンファーマ株式会社
- 大日本住友製薬株式会社
- 株式会社ロッテ
- 小野薬品工業株式会社
- TK@PINO
- 株式会社 カーギルジャパン
- 協和発酵キリン株式会社
- 公益社団法人全国老人福祉施設協議会
- 株式会社ベネッセホールディングス
- 小林製薬株式会社
- 株式会社ジェネックス
- ハウス食品グループ本社株式会社
- 日興アセットマネジメント株式会社
- 株式会社リンクコーポレイトコミュニケーションズ
- 株式会社 C-driven

- 青森明の星短期大学
- 株式会社旭リサーチセンター
- 株式会社リンク・リレーション・エンジニアリング
- YKK 株式会社(2)
- グランリッジ・アソシエイツ
- 株式会社リクルート
- 株式会社テクノアソシエ
- 株式会社メガスクエア
- 株式会社東急総合研究所
- 日鉄物産株式会社
- 株式会社グレイス
- Dole Asia Holdings PTE. LTD
- フォスター電機株式会社(2)
- 株式会社 NTT ドコモ
- 株式会社 博報堂アイ・スタジオ
- Kokuyo International Malaysia Sdn. Bhd.
- ブリティッシュ・カウンシル
- 丸文株式会社
- スリーエム ジャパン株式会社
- 江崎グリコ株式会社
- SaLon Ayus
- 高崎商科大学
- 株式会社アベリス
- ウイングアーク 1st 株式会社
- 株式会社ケセラセラ
- 参天製薬株式会社
- HOYA 株式会社
- 三菱重工業株式会社
- COEDA LABO 株式会社
- 前田建設工業株式会社
- ウォルトディズニーアトラクションズ株式会社

英國 CMI 認定 サステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者

[資格保持者一覧 \(日本\)](#)

[資格保持者一覧 \(世界\)](#)

講師 下田屋 毅



下田屋毅（サステイナビジョン代表取締役、CSR/サステナビリティ・コンサルタント）

1991 年 川崎重工業株式会社に入社。工場管理部にて人事・労務・給与・社会保険・福利厚生・教育・労働安全衛生等を担当。労働安全衛生主担当として、「安全衛生管理要綱」作成、「安全内部監査制度」を企画・導入。事業部の PR・広報宣伝強化プロジェクトのプロジェクトマネジャーとして、PR、広報宣伝、営業拡販、顧客・代理店との連携強化の為の諸施策を実行。中国プロジェクト参画。2002 年出向にて、環境ビジネス(RPF 製造：株式会社エコ・マイニング)新規事業立上げメンバーに選出、営業戦略・マーケティングを企画立案。

2007 年 9 月より英国 East Anglia 大学に留学。2008 年 8 月同校 MSc in Environmental Assessment and Management 修了。環境影響評価、環境マネジメントシステム、リスク管理、廃棄物管理、ライフサイクルアセスメント、カーボンフットプリントについて学ぶ。

2008 年 10 月英国 Lancaster 大学に進学。2009 年 9 月同校 MBA 修了。2010 年 12 月日本での職務経験・知識、また英国の環境科学とビジネスの修士で得た知識をベースに、CSR・環境のコンサルティング会社「Sustainavision Ltd.」を英国ロンドンにて設立。

2011 年 7 月より国際交流基金ロンドン CSR セミナーシリーズ・プロジェクトアドバイザー。

2011 年 9 月 欧州 CSR コンサルティング会社 [Centre for Sustainability & Excellence \(CSE\) 社](#) と戦略的パートナーシップを締結 2011 年 12 月より CSE 社の [アドバイザリーボードメンバー](#) に就任。

2017 年 1 月 [一般社団法人ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステナブル・サプライチェーン（スク）](#) を日本にて設立、日本企業のサプライチェーン上の人権、労働問題、環境問題の課題解決に向けた取り組み（外国人労働者ラウンドテーブルなど）を海外のイニシアティブとの連携を行いながら進めている。

2018 年 [一般社団法人 日本サステナブル・レストラン協会](#) を英国 Sustainable Restaurant Association との連携により日本に設立。飲食店がサステナビリティのリーダーシップを発揮し、生産者、消費者、そしてフードシステム全体を持続可能にするための仕組みを構築するために活動を開始している。

<セミナー・講演の開催実績>

- [「欧洲新 CSR 戦略、日本企業はどう欧洲 CSR に対応していくべきか」（2012 年 1 月東京）](#)
- [「The Asahi Shimbun Sales Training Workshop 2012」にて基調講演（2012 年 10 月英國ロンドン）](#)
- [HEC Paris Business School にて世界の CSR のトレンド等を講演（2012 年 11 月フランス・パリ）](#)
- [サステナビリティ日本フォーラム、ヒューライツ大阪主催「人権ワークショップ、CSR にどう人権を生かすか」にて、「欧洲企業の人権への取り組み」を講演（2013 年 2 月東京）](#)
- [経団連 企業市民協議会（CBCC）にて、「ビジネスと人権に関する指導原則～欧洲企業の取り組み～」を講演（2013 年 6 月東京）](#)
- [JETRO London セミナーにて「企業の社会的責任（CSR）とビジネスリスク」を講演（2013 年 9 月ロンドン）](#)
- [王立国際問題研究所（チャタムハウス）のラウンドテーブルにて「コーポレートガバナンスと CSR」に関するプレゼンテーションを実施（2014 年 3 月英國ロンドン）](#)
- [グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン主催「CSR セミナー 基礎から欧洲最新トレンドまで」を講演（2014 年 4 月東京）](#)
- [CSR 京都主催「CSR の社内浸透のために～欧洲事例に学ぶ～」を講演（2014 年 9 月京都）](#)
- [グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 環境経営分科会主催の研究会にて「欧洲における環境 CSR の動向」を講演。（2015 年 1 月東京）](#)
- [サステナビリティ会計事務所、サスティバー・コミュニケーションズ主催の「CSR 特講」にて、「欧洲先進企業の CSR の意識と取り組みから考える」を講演（2015 年 10 月東京）](#)
- [JETRO London セミナーにて「英國現代奴隸法 2015 セミナー（Modern Slavery Act 2015 Seminar）」を講演（2015 年 11 月英國ロンドン）](#)
- [経団連 企業市民協議会（CBCC）にて、「英國現代奴隸法の概要－同法への対応をめぐる動向、適切な対応に向けて留意すべき事項等－」を講演（2016 年 3 月東京）](#)
- [他後援多数](#)

＜執筆・連載＞

- [「Sustainable Brand Japan SB-J コラム 下田屋 育」](#)
- [「Sustainable Japan ~下田屋氏の欧州 CSR 最新動向~」](#)
- [「志のソーシャル・ビジネスマガジン オルタナ：欧州 CSR 最前線」](#)
- [「オルタナ・オンライン：欧州 CSR 最前線」](#)
- [「環境プランナーメールマガジン」](#)
- [「ブレーンセンター・トピックス提言：CSR の推進に不可欠な社内浸透教育の重要性」](#)
- [「時事通信社 金融財政ビジネス・経済人」](#)
- [「東洋経済オンライン ここがヘンだよ日本の CSR」](#)
- [「シータス&ゼネラルプレス サステイナビジョン下田屋氏に質問」](#)
- [「レスポンスアビリティ社 メルマガ、サスナビ 欧州ここだけの話」](#)
- [「日経エコロジー CSR 世界の潮流」](#)
- [「新・CSR 検定 3 級公式テキスト」](#)
- [「新・CSR 検定 2 級公式テキスト」](#)
- [「日本復活を本物にチャタムハウスから世界へ」 5.5.5 日本企業のガバナンスへの社会的責任投資の影響](#)
- [「ZUU オンライン」](#)
- [「東洋経済 CSR 白書」](#)
- 他執筆多数

ゲストスピーカー ニコス・アヴロナス氏



ニコス・アヴロナス氏（CSE 代表取締役兼創設者）

ゲストスピーカーは、シカゴ、ブリュッセル、アテネに拠点を持つ CSR コンサルティング会社 [Centre for Sustainability and Excellence \(CSE\)社](#) の代表取締役であるニコス・アヴロナス氏が、海外からスカイプにて、CSR/サステナビリティのトレンドについてプレゼンテーション、Q&A セッションを実施します。

ニコス氏は、2010 年に信頼できる企業行動を奨励する Trust Across America により「信頼できる企業行動におけるトップ 100 人のリーダー」に選ばれました。彼は、国際的に「持続可能な発展」や CSR に関するトピックについてのスピーカーとしてもよく知られており、北米、ヨーロッパ、中東及びアジアの 20 カ国において講演を行ったり、専門家を育てる尽力をしています。

ニコス氏は、サステナビリティ、CSR、企業管理、企業倫理と業務管理の専門家です。この 15 年間、彼は、フォーチュングローバル企業 1000 を含む世界を牽引する企業である BP、Dell computers、Mc Cain、DHL、Lafarge、Deutsche Post、HSBC、the Bank of Cyprus、DIFC、the European Investment Bank、the Lloyds Banking Group に対して数々のプロジェクトを実施してきました。さらに、世界で活躍する 5000 人以上の経営者に対してのトレーニングやコーチングを行ってきました。

ニコス氏は、世界中の企業の議長や助言者の一員として貢献するとともに、様々なビジネストピックに関してワークショップや国際会議をコーディネートすることにも携わっています。

「Management Models for the future」（2009 年発刊）の著者の一人として、「責任ある競争」について分析をしています。彼のサステナビリティ、CSR、企業統治、気候変動についての記事や調査は、国内外の雑誌や新聞に取り上げられており、また CNBC、CCTV (China Central TV) 、Voice of America など様々なメディアからもインタビューを受けています。

英国 CMI とは

[Charted Management Institute \(CMI\)](#) は、英國の主要団体として、毎年 3 万人以上の研修受講生を排出していて、資格認定プログラムにおいて、より高い基準を持つ世界的な組織です。CSR は、それ自体リーダーシップについてであり、適切なマネジメントについてのものであり、CMI はこの上で、より正しく、そして認知され、信頼できる組織です。

CSE とは



[Centre for Sustainability and Excellence \(CSE\)社](#) は[英國 IEMA の公認](#)トレーニング団体として、このサステナビリティ（CSR）プラクティショナー資格講習を、欧州・北米・中東・アジアにて開催しています。

CSE 社はサステナビリティ・CSR・持続可能な開発に焦点を当てたグローバル戦略コンサルティング、教育訓練を実施しており、シカゴ、アテネ、ブリュッセルに拠点があります。

CSE 社は世界 28 カ国から 5000 人のエグゼクティブに対して CSR・気候変動関連のトレーニングを実施した実績があります。また、CSE は国際的な専門家やコンサルタントのネットワークを持ち、団体や政府、そして研究所に対して、ステークホルダーの価値を高めるためのユニークで進んだサービスを提供しています。

[お問合せ・お申込み](#)

よくあるご質問（FAQ）

Q1：現在、直接の業務としては CSR/サステナビリティの担当はしておりません。受講は可能でしょうか？

本 CSR 資格講習は、CSR/サステナビリティ担当部門の方が多く受講されますが、CSR/サステナビリティについて知識を得たい、これからしっかり実施していきたいなど、CSR/サステナビリティに携わってこなかった方にもご受講いただいております。

CSR/サステナビリティ担当部門からご受講される方でも新しく CSR/サステナビリティ部門に配属され、これから CSR/サステナビリティを勉強されるという方もいらっしゃいますし、海外では、CSR/サステナビリティ部門に配属された方にこの資格を最初に取得させることをしている企業もあります。

CSR/サステナビリティの業務に携わっていない方は、CSR/サステナビリティ業務に携わっている方より、理解に時間がかかるかもしれません。しかしながら講習は基本的な CSR/サステナビリティの知識についても触れてきますので、順を追って理解することができると思います。またわからないことがあれば講習中、または、休み時間に質問をいつでも受け付けていますので、理解できなかったところについては聞いていただけると思います。

Q2：受講料はどのように支払うのですか？

受講料は、「銀行振り込み」か「Paypal（ペイパル）を通したクレジットカードでのお支払い」をお願いしています。「銀行振り込み」を選択される場合には、こちらから当社の銀行への振り込み先をお知らせいたします。また、ご要望の場合は、請求書を発行いたします。

「Paypal（ペイパル）」を通じてクレジットカードでお支払いをされる場合には、別途 Paypal 使用料を加算してお支払いいただくことになりますことをご了承ください。

Q3：英國 CMI 認定サステナビリティ（CSR）プラクティショナー資格の更新要件について教えてください。

資格取得日から 12 か月以内に、社内外の CSR に関する研修・セミナー・ワークショップへの参加（16 時間に相当する研修）が必須となります。

これら研修・セミナー・ワークショップは、社内外関わらず、また、どの団体の主催するものでも OK です。資格取得後、12 か月後に、当方からのメールにて確認させていただくこととなります。（所定の報告書にて提出が必要となります）

資格更新料は 100 ユーロの費用がかかります。

また、もしこの期間に CSR 関連のセミナー（16 時間相当）に参加できなかった場合には、更新の条件として、別途課題の提出が必要となります。この場合は、別途約 400 ユーロの費用が必要となります。

Q4：英國 CMI 認定サステナビリティ（CSR）プラクティショナー資格講習は今後どの程度開催されますか？

1 年に通常 2 回の開催を予定しています。

2020 年については、2020 年 3 月、7 月、10 月を予定しています。

※次回の 21 回目の開催は、2020 年 3 月 5 日（木）・6 日（金）です。

22 回目の開催は、2020 年 7 月 2 日（木）・3 日（金）です。

Q5：開催は東京が多いですが、他の地域での開催はありますか？

2020 年 3 月、7 月、10 月の開催は東京にて開催しますが、それ以外の地域では、現在予定しておりません。

Q6：予定している開催場所以外での開催は可能でしょうか？

東京以外での開催をご要望の場合、10 名以上の人数の参加者が確保できる場合には、ご要望の地域にて開催いたします。詳細については、こちらから[お問合せ](#)ください。

Q7：会社内の CSR 担当者や各部門長を対象にして、英國 CMI 認定サステナビリティ（CSR）プラクティショナー資格講習を開催することは可能でしょうか？

各企業様や団体様に対して内部の方々向けに個別に英國 CMI 認定サステナビリティ（CSR）プラクティショナー資格講習を開催することは可能です。また、企業様の研修室での開催など出張も可能です。都度お見積りさせて頂きますので、詳細については、こちらから[お問合せ](#)ください。

Q8：受講後の「資格証明書」は、何時何所から発行交付されますでしょうか？また、申請から交付までの流れを教えてください。

講習後の課題の合格を持って資格が付与されます。講習後の課題の提出締切日（講習受講から 2 週間後）から、課題の審査と申請に約 1 か月程いただいております。その後、合格されている場合には、PDF での資格証を E メールにて送付いたします。

そして、紙の資格証をご要望の有無を確認、ご要望をいただいた方のみに紙の資格証を発行いたします。紙の資格証の送付は、当社サステイナビジョンから、ご指定の住所（会社あるいは自宅）に送付いたします。

Q9：申込み後のキャンセルはできますか？

キャンセルについては、[こちら](#)をご確認ください。

その他のお問合せにつきましては、[こちら](#)からお願ひいたします。

以 上